

令和5年度 第1回 保土ヶ谷区障害者自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク～地域生活支援拠点部会～ 記録	
日 時	令和5年 5月 11日 (木) 13:30～15:00
開催場所	ほどがや地域活動ホームゆめ ボランティアルーム
出席者	光風会、わおん・相談支援事業所、銀河和田町、はるの家・重心の児童事業、 NPO 法人きてん、いわまワークス知的の自立支援アシスタント担当 リモート：夢21ホーム <事務局> 保土ヶ谷区基幹相談、部会長・いわまワークス、夢21福祉会、区生活支援センター、 ほどがや希望の家、区障害福祉課精神保健担当、区障害福祉課知的障害担当
欠席者	
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ <u>非公開</u>
議 題	<p>1. 事務局より（部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会名称変更の件「まちで暮らすネットワーク～地域生活支援拠点部会～」 ・本日の内容について <p>1回目の部会なので自己紹介から始めます。今年度から、わかりやすい部会名にした。本日はその確認を中心に、議題にそって進めたい。</p> <p>2. 自己紹介</p> <p>3. 地域生活支援拠点について（保土ヶ谷区基幹）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点とは <p>市の相談支援のしくみの説明 （1）身近な相談者 ニーズを確認 →既存資源の面的なネットワーク <まとめ> 支援は個別性が高い 日々の業務の積み重ね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面的ネットワーク作りにおけるコーディネーター役は誰がやる？ →計画相談か3基幹が中心。既にコーディネーター役がいる場合はその限りではない。 ・「まちで暮らすネットワーク～地域生活支援拠点部会～」とは 地域生活支援拠点部会の前身の部会は「住居部会」だった。それが地域生活支援拠点部会に変わったが、分かりづらく参加が少なかった。 この会議の前の事務局会議で「まちで暮らすネットワーク」をつける提案があった。 <p>4. 事例検討・事例共有についてのお願い（保土ヶ谷区基幹）</p> <p>部会で年3回、第1回目は7月、事例検討を予定している。できれば、7月の事例発表者を決めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のばら園から自法人のGHに入ったケースは多くある。入所していて、GHに出た方でトラブルがあって入所に戻った方の事例はある。

- ・入居者が高齢化していて、高齢の方の移行先が今課題になっている
- ・精神の方。既存の短期入所では難しい見通しがある。体験も考えづらい。現在両親が支えている。
- ・会社がポスティングを毎月行う。よって問合せが多数あるが、B型の対象ではない方のケースはいくつも出せる。
- ・児童の分野からも事例の提案はないか。冬に行ったアウトリーチの報告会の発表も再度行ってもいいのではないか。
- ・困っている事例2つ。GH入居の強行の方、重訪を入れているが、支援者が足りず、遅刻も減らないケース。GHで4月から入居した精神の方、医療と見解が合わないケース。
- ・いくつか上がった中から、事務局で、7月の事例を決める。

5. その他、情報共有等

- ・第1回代表者会議全体会開催の件

6月1日(木) 午後 保土ヶ谷公会堂会議室

議題：前年度活動報告・当年度活動予定

検討テーマ「共有したいこと」

- ・部会年間予定 資料の通り。奇数月第2木曜 13:30～

7月・11月・1月 事例検討

9月 グループホーム交流会

2月 支え合い研修

- ・制度面

○制度設計上では、足りている、足りていないという判断をしがち。ネットワーク作りを通じた現場からの課題共有を行政と進める必要があると感じる。

○制度を理解した上で実践の課題を言わないと、行政は受け止めない。よって、制度を理解しないと、制度面の改善を要求できない。

○地域で受け止めないと、結局入所に戻ることになる。受け皿作りを通して、制度面の課題を要求される形がベターではないか。

●**次回日程** 7月 13日(木) 13:30 ～ 15:00 **場所** ゆめ2階

会議終了後、事務局で事例検討の予定を協議。

1回目：のばら園

2回目：わおん

(全て、敬称略)